
ログイン認証

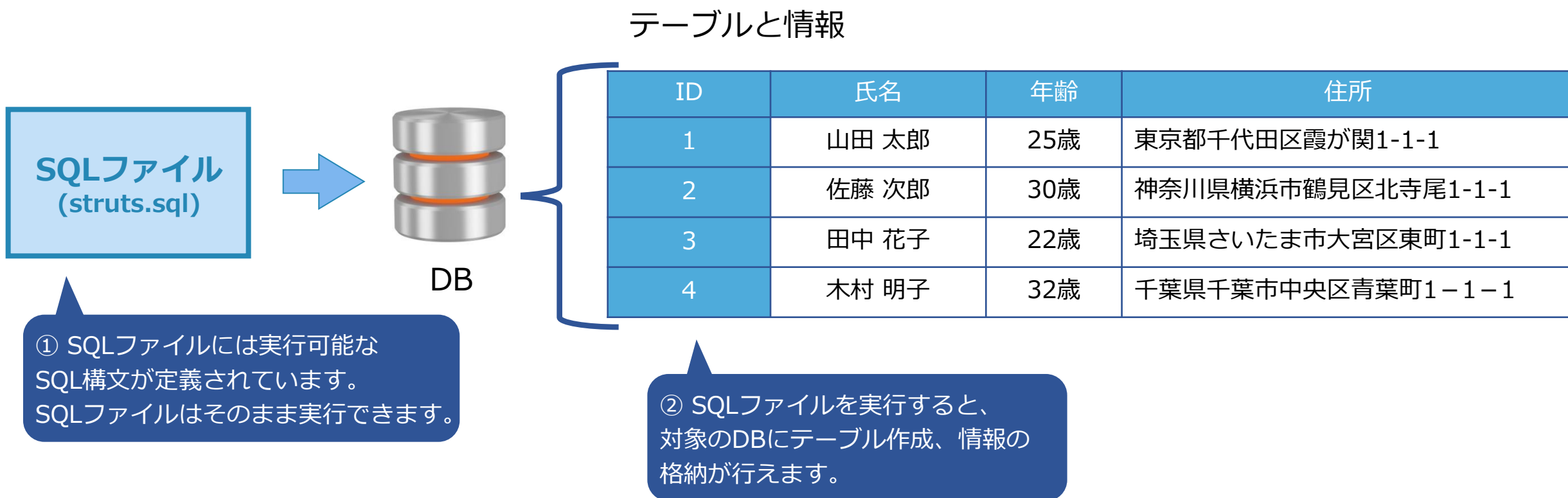
SQL実行・Server設定

5 時間目

SQL実行

解説

SQLファイルには、実行可能なSQL構文が定義されています。
1つのファイルにSQL構文をまとめることで、異なる開発環境下でも同じDBを用意することが容易になります。



1) SQLファイルの実行

2) 動作確認

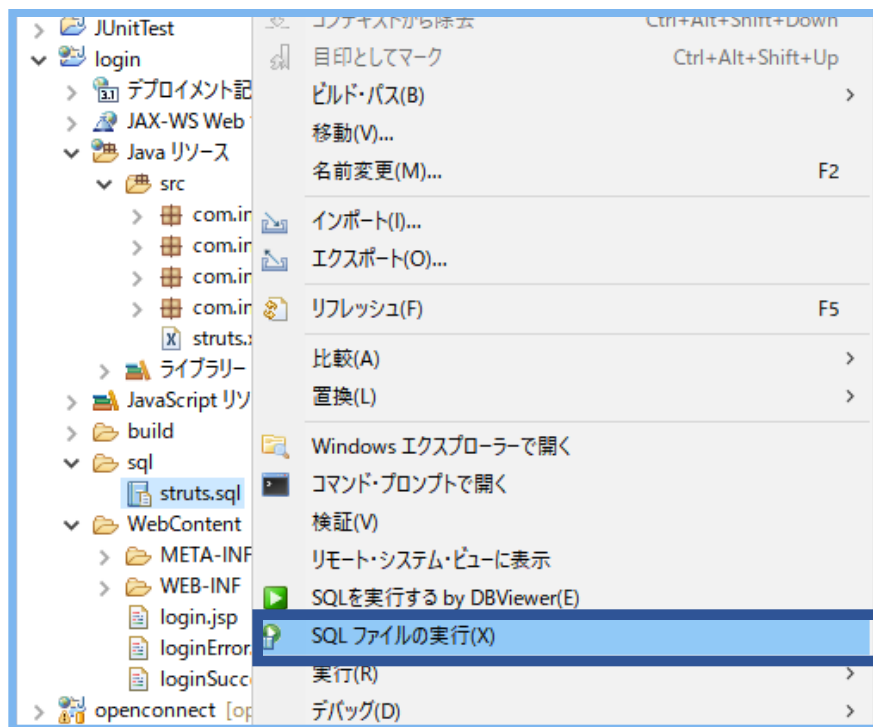
1 : サーバ設定

2 : サーバ起動

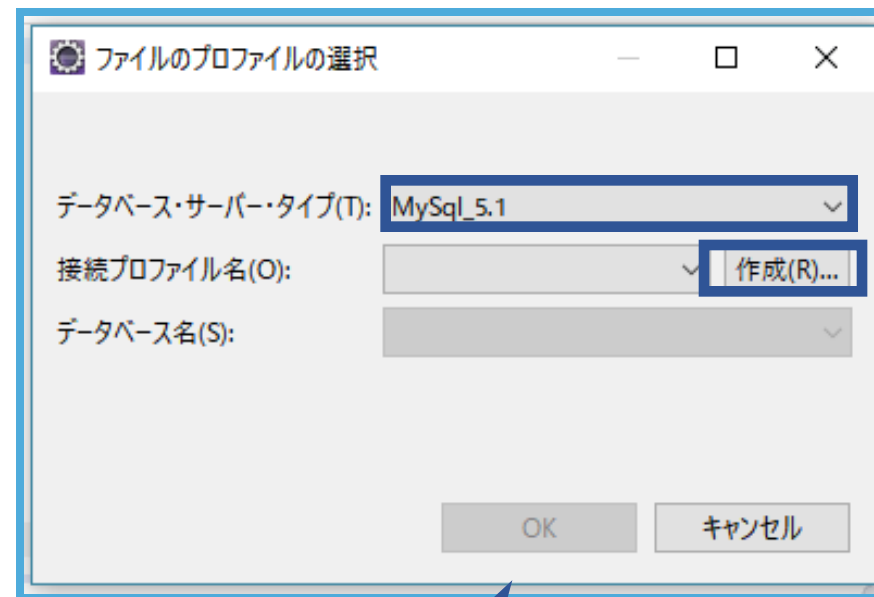
3 : 画面動作確認

SQLファイルの実行

1 SQLファイル

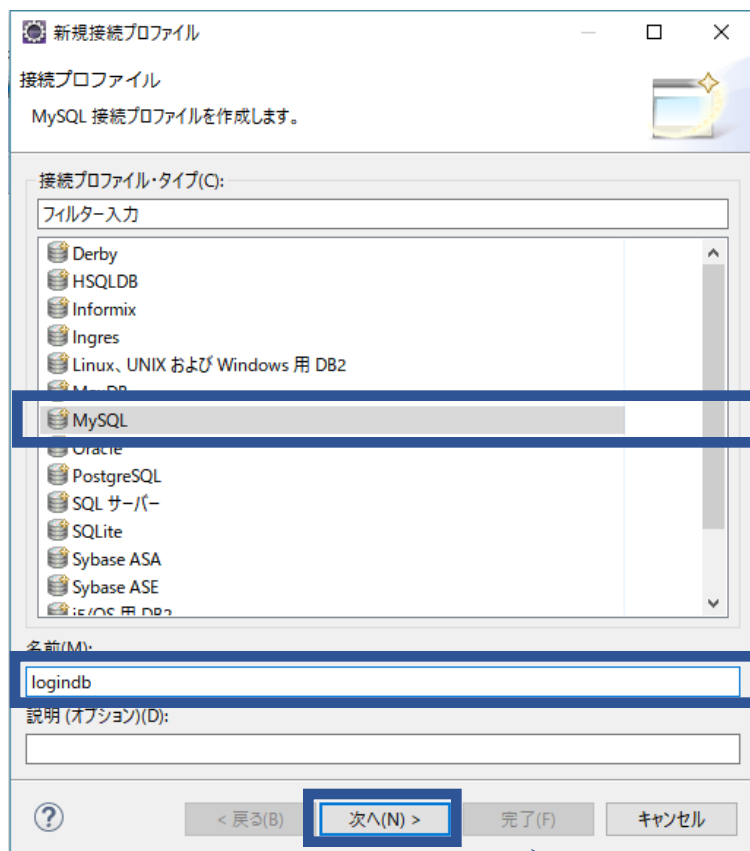


① 「プロジェクト」「WebContent」「sql」の中から「struts.sqlファイル」を右クリックし、「SQLファイルの実行(X)」を選択します。

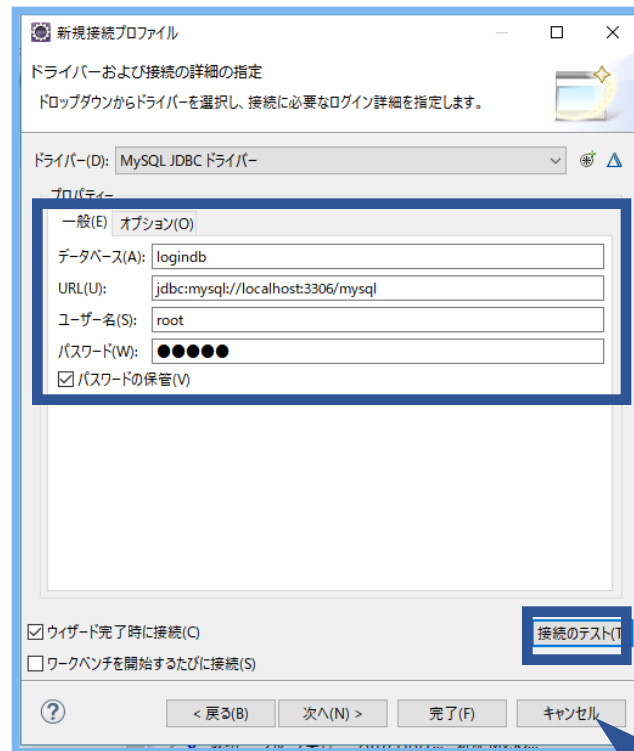


② 「データベース・サーバ・タイプ(T):」を「MySql_5.1」に設定し、「接続プロファイル名(O):」の作成をクリックします。

SQLファイルの実行

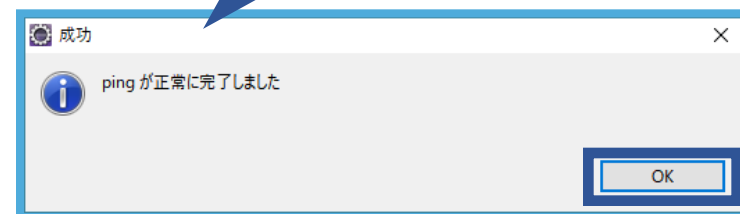


③ 「接続プロファイル・タイプ(C):」を「MySQL」に選択し、「名前(M):」の欄に「logindb」と入力し、次へをクリックします。

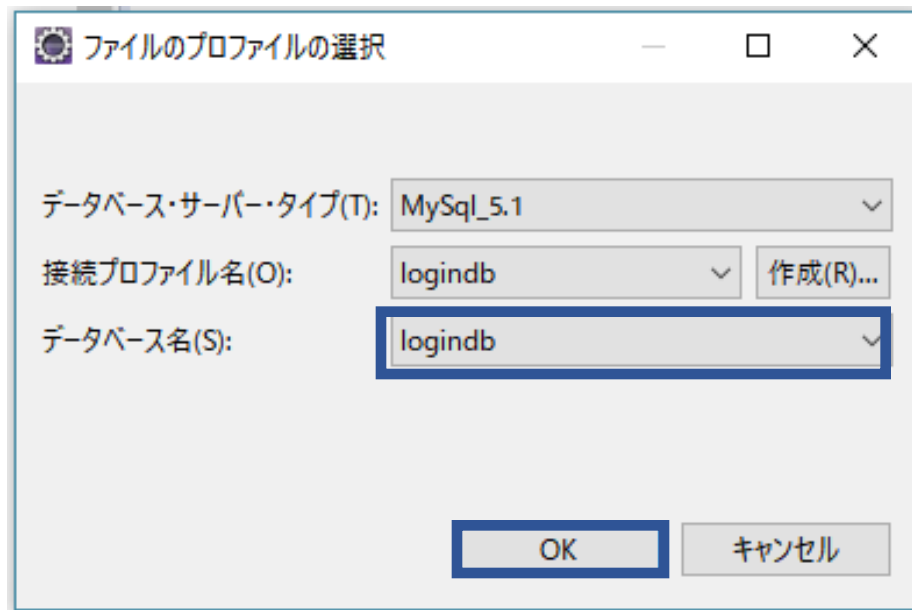


④ 「ドライバー(D):」で「MySQL JDBC ドライバー」を選択し、「データベース(A):」に「logindb」、「URL(U):」に「jdbc:mysql://localhost:3306/mysql」、「ユーザ(S):」に「root」、「パスワード(W):」に「mysql」を入力し、パスワードの保管にチェックを入れ接続テストをクリックします。

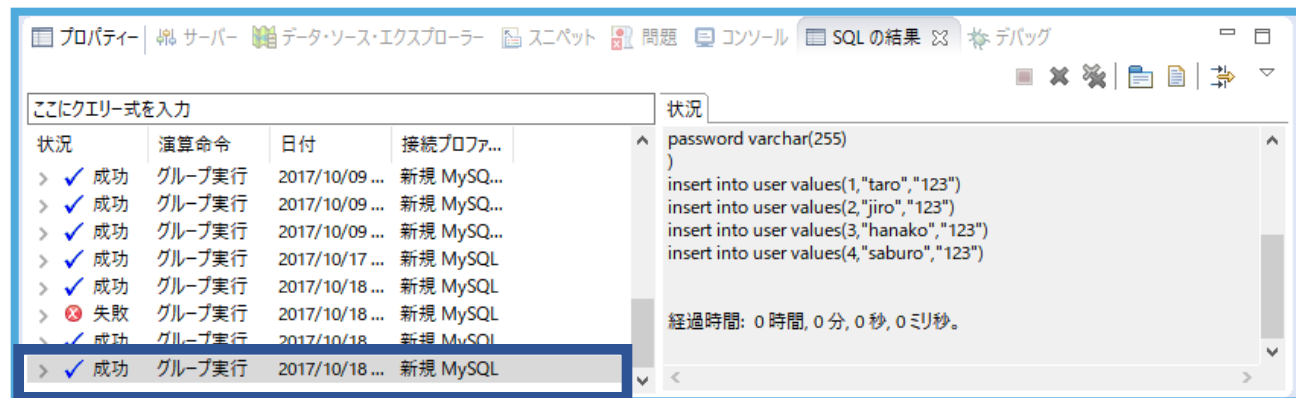
⑤ OKをクリックし、完了をクリックします。



SQLファイルの実行



⑥ 「データベース名(S):」を「logindb」に設定し、OKをクリックします。



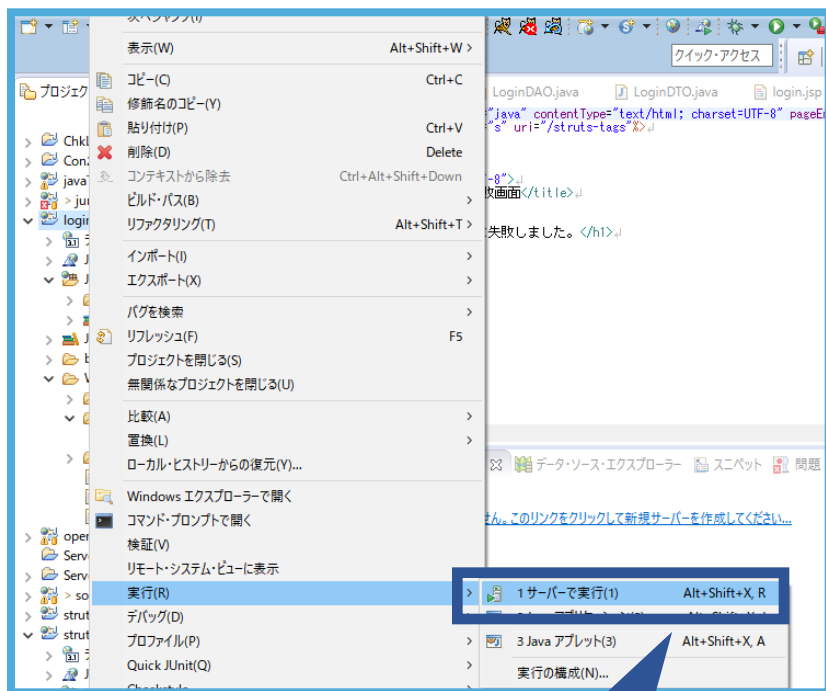
⑦ 「状況」が「成功」になれば実行完了です。

サーバの設定

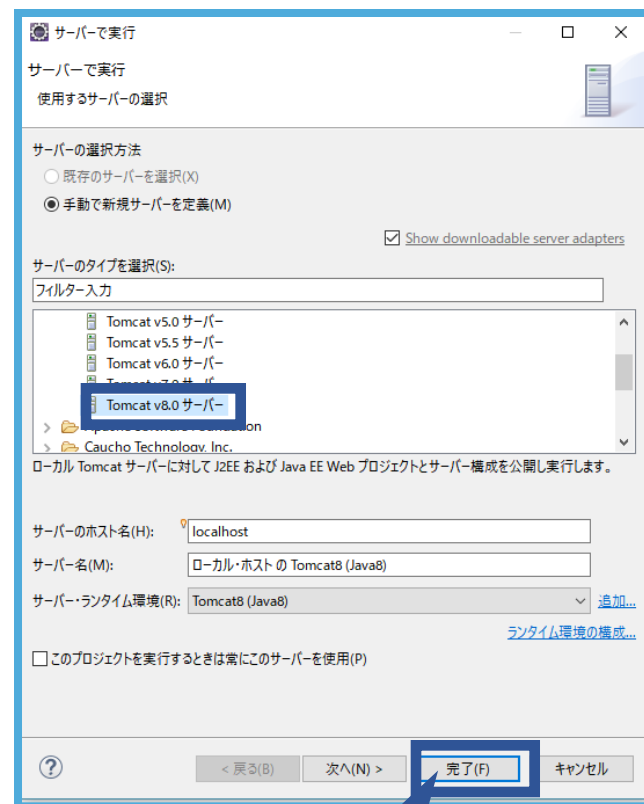
解説

Java言語でwebアプリケーションを作成する場合、アプリケーションサーバにJavaソースを認識させる必要があります。TomcatはJavaソースを認識することができるアプリケーションサーバになります。

2 Tomcat

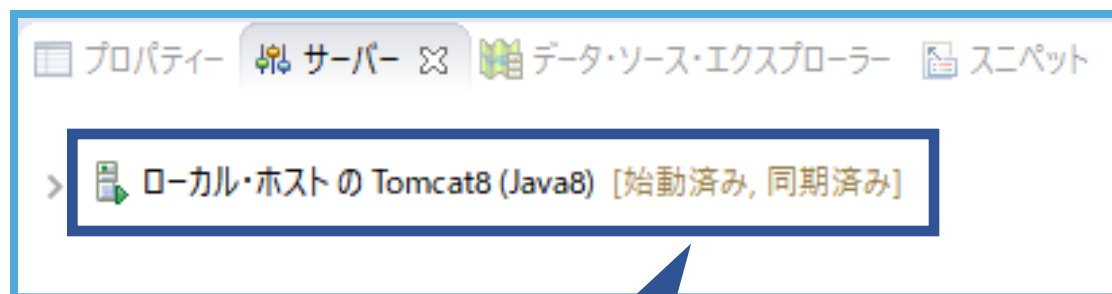


① 「プロジェクト」で右クリックし、「実行(R)」 「サーバーで実行(1)」を選択します。

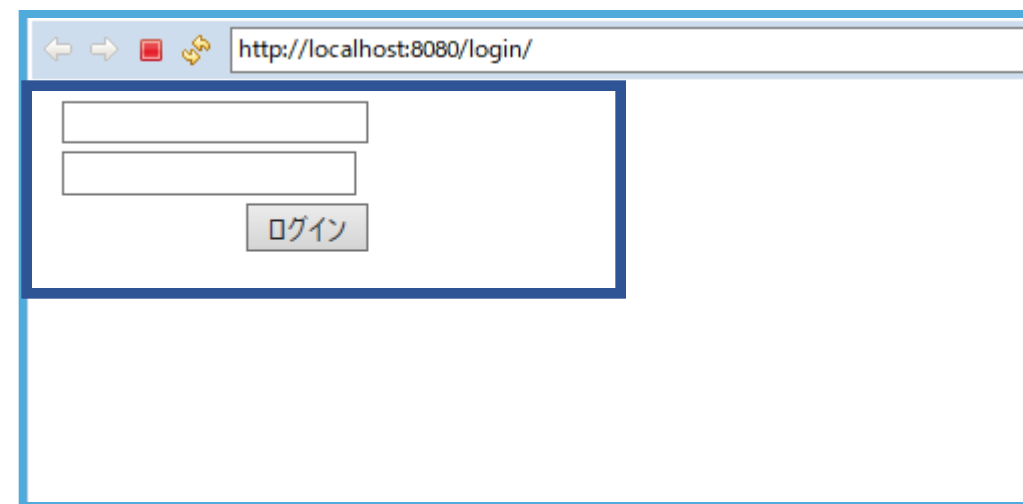


② 「サーバーのタイプを選択(S):」欄に「Tomcatv8.0サーバー」を選択し完了ボタンをクリックします。

サーバの起動



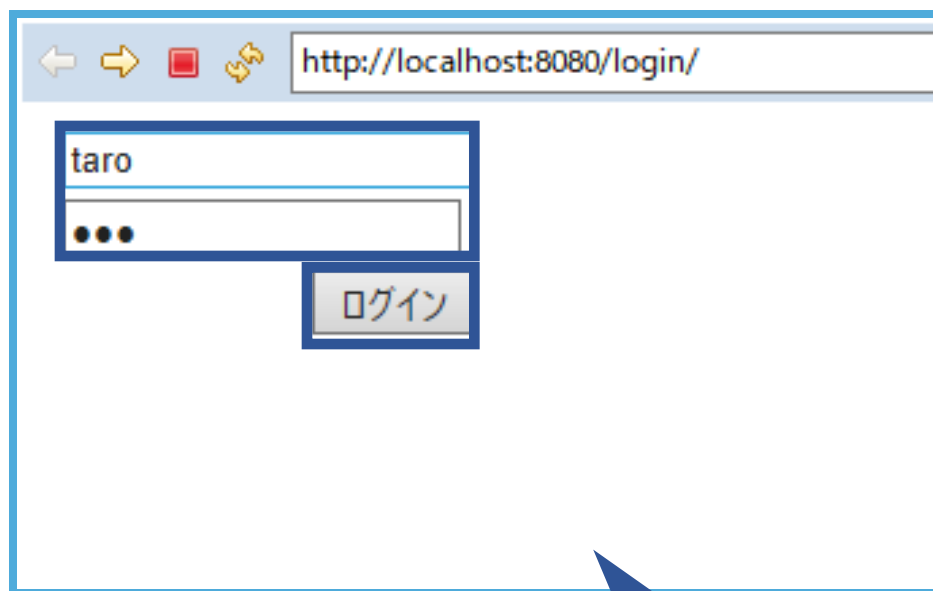
③ サーバーの状態が「起動済み、同期済み」になっていれば起動成功です。



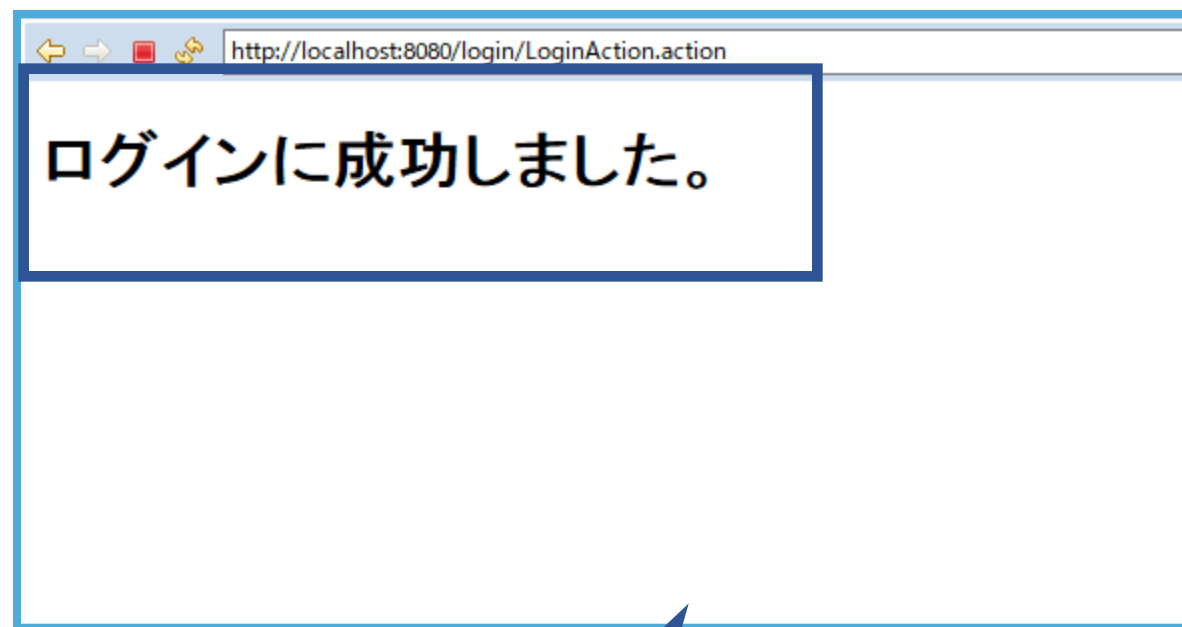
④ 「http://localhost:8080/login/」へアクセスし、上記と同じ画面が表示されていれば完了です。

動作確認（成功画面の確認）

3 成功時の画面動作確認



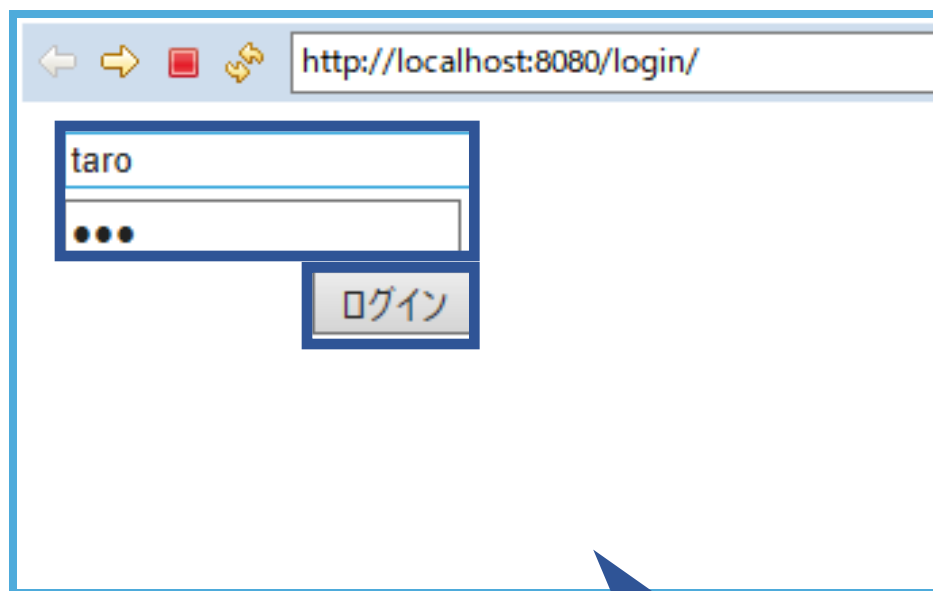
- ① 上のテキストボックスに「taro」
下のテキストボックスに「123」を入力し、ログインボタンをクリックします。



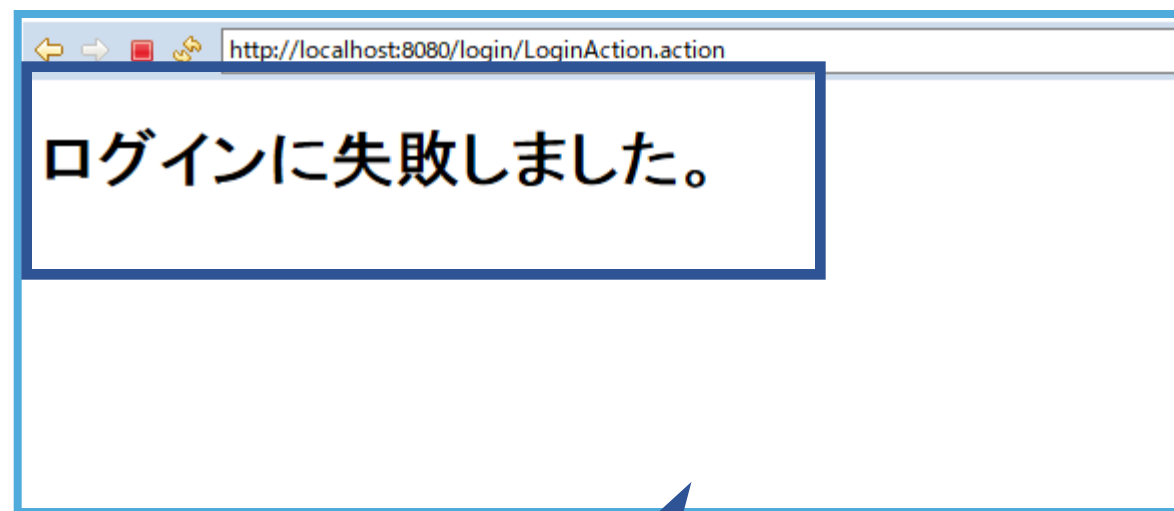
- ② ログイン成功の画面が表示されれば、成功です。

動作確認（失敗画面の確認）

4 失敗時の画面動作確認



① 上のテキストボックスに「taro」
下のテキストボックスに「456」を入力し、ログインボタンをクリックします。



② ログイン失敗の画面が表示されれば、成功です。